

# レセプト分析費用抑制

## 医療再生 第2部

### 北海道の道標 6

「腎機能の数値が健康体とほとんど変わらないようになった」とわ。主治医が血液検査の結果に驚いた。糖尿病を患う広島県呉市の井上泰さん(69)は「これも呉市の指導のおかげ。金のかさむ透析治療も受けて済むし、国の財政にも貢献してる気分です」と笑顔を見せた。

高齢化社会を迎える日本で

レセプト 医療行為を行った診療報酬が各保険者に送る診療報酬の明細書。患者別に疾病名や処方薬などの情報が記されている。国民健康保険の場合、情報は都道府県単位の国民健康保険団体連合会に集約される。各自治体への提供方法や活用の仕方は自治体によって異なる。



主治医(手前)から定期検査の結果を聞く井上さん(6月13日、広島県呉市で)＝土居宏之撮影

は、増え続ける医療費の適正化は喫緊の課題だ。2012年度の国保医療費は年間約1兆6500億円に達し、国と地方自治体の財政を圧迫している。この課題にいち早く取り組み、医療費抑制に成功したのが呉市だ。

生活習慣病の予防医療は医療費の抑制に直結する。呉市の場合、糖尿病初期の年間医療費は1人約3万円だが、透析患者になると約600万円

に膨らむ。これまで約2600人が指導を受けたが、透析に移ったのは人だけ。全員が透析を受けると、単純計算で年間約16億円の費用が掛かるため、医療費の抑制効果は高い。

人口約24万人の呉市は高齢化率(65歳以上人口の割合)が約32%で、15万人以上の都市では最高だ。医療費も高く、呉市保険年金課の原垣内清治課長(53)は「10年後の日本と言われる呉市にとって、レセプト分析と予防医療が医療費抑制の鍵だ」と力を込める。

レセプトの分析は高額な先発薬を多用する患者のリスト化も可能にした。呉市は毎月3000人の患者、安価なジェネリック医薬品(後発薬)の利用を求める通知を出しており、12年度には約1億3300万円の削減効果があった。



1人当たりの医療費※ (2011年度)	
北海道	全国平均
57万5000円 (全国10位)	47万7000円

※国民健康保険+後期高齢者医療制度

一連の取り組みで、12年度、呉市国保の1人当たり医療費の伸び率は1.2%に収まった。高齢化率が約25%の北海道(1.3%)とほぼ同じで、

## 処方箋

### 受療傾向データで把握を

呉市はレセプト分析を基に、後発薬の推奨と重症化予防の2段階にわたる医療費の適正化に取り組んでいる素晴らしい事例だ。医師会は保険者から治療内容などに口出しされることを嫌がるもの。それを乗り越え一歩踏み出したことが成功に結びついたのだろう。

北海道は広大な土地に過剰に病院施設があり、極めて非効率だ。医療圏の再編も進んでおらず、データ分析に基づく医療計画の見直しが必要。国も「データヘルス」を推奨しており、患者情報を分析して受療傾向を把握し、医療費を抑えることが全国的な流れだ。ここそ北海道も変わる時だ。



国際医療福祉大学で医療・福祉の経営管理を教える 武藤正樹教授(65)

全国平均の2.3%を下回っている。厚生労働省などによると、レセプトデータの活用を基にした医療費抑制の取り組みは、東京都荒川区など一部で導入されている。道国保団体連合会は全市町村に患者別のレセプト情報を提供しているが、活用は自治体任せだ。岩見沢市が今年から民間企業に重症化予防事業を委託したが、道内では珍しい。

道内の医療費が高い原因の一つに、予防医療が不十分で生活習慣病の入院受療率が高いことがある。道内の平均入院日数(12年は35.9日)(全国11位)で、医療費を押し上げていく。道国保医療課は「道内は医療機関が都市部に集中している。地方の生活習慣病患者は通院に何時間もかかるため、入院治療を選ばざるを得ない」と分析する。

呉市の予防医療を主導する広島大学医歯薬保健学研究所の森山美知子教授は「医療の世界では『2割の患者が8割の医療費を使う』とされる。現代の疾病構造は生活習慣病などの慢性疾患が中心となっており、予防医療の果たす役割は大きい」と指摘する。